



平成28年度 全国学力・学習状況調査

長野市の結果分析と
学力向上・授業改善の糸口

平成28年11月

長野市教育委員会

目 次

1	調査内容	1
2	調査対象	
3	教科に関する調査の結果概要 (A・B 学力)	
4	教科別の結果	2
	(1) 小学校国語 A問題	
	(2) 小学校国語 B問題	
	(3) 小学校算数 A問題	
	(4) 小学校算数 B問題	
	(5) 中学校国語 A問題	
	(6) 中学校国語 B問題	
	(7) 中学校数学 A問題	
	(8) 中学校数学 B問題	
5	長野市で大切にしている資質・能力 (C学力)	6
6	質問紙調査の結果から	7
7	学力向上・授業改善の糸口	11

1 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・平成28年4月19日(火)実施
- ・小学校 国語A・算数A(主に「知識」に関する問題)
国語B・算数B(主に「活用」に関する問題)
- ・中学校 国語A・数学A(主に「知識」に関する問題)
国語B・数学B(主に「活用」に関する問題)

(2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査



しなのきプラン 29

2 調査対象

市立小学校6年生 54校 3,265人(6年生不在籍校があるため、53校で実施)

市立中学校3年生 24校 3,057人

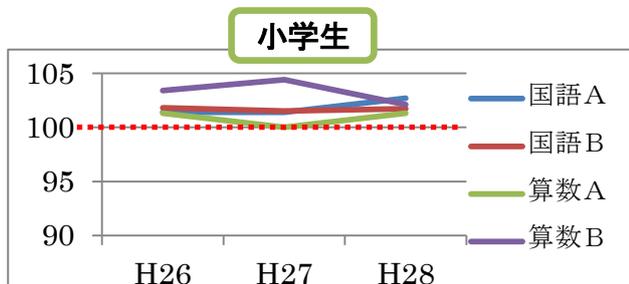
※ 調査人数は、国語Aの実施人数を記載しています。

3 教科に関する調査の結果概要(A・B学力)

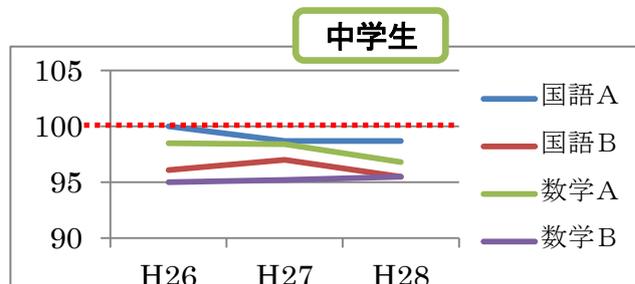
	小学生				正答率(%)と全国との点数差					中学生				
	長野市	長野県	全国	全国との差		長野市	長野県	全国	全国との差		長野市	長野県	全国	全国との差
国語A	75	74	73	+2		75	76	76	-1		75	76	76	-1
国語B	59	59	58	+1		64	66	67	-3		64	66	67	-3
算数A	79	77	78	+1		60	61	62	-2		60	61	62	-2
算数B	48	47	47	+1		42	44	44	-2		42	44	44	-2

※ 赤字 全国と同じ、または上回った数値 青字 全国を下回った数値

全国の正答率を100とした場合の、本市の結果の推移(国語、算数・数学)



全調査で全国平均を上回り、良好な結果となりました。国語A・B、算数Aは、昨年度を上回りました。



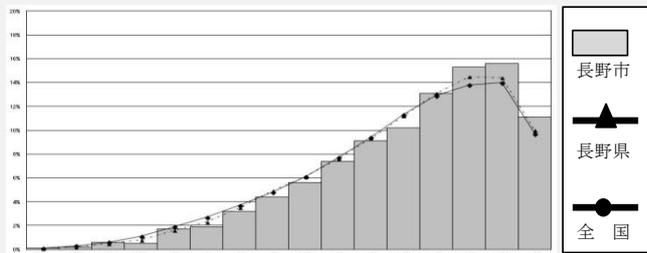
全調査で全国平均を下回りました。国語Aはほぼ全国並みですが、国語Bと数学では課題が残る結果となりました。

4 教科別の結果

(1) 小学校国語 A問題（知識に関する問題）

正答数分布

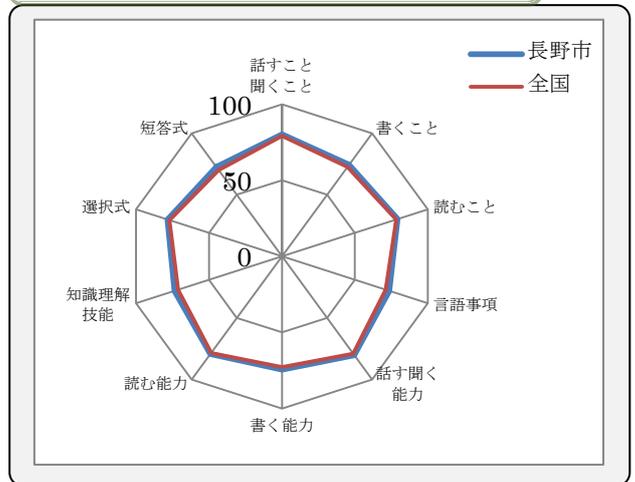
学力の分布は、正答数の多い側に集中した山形である。



○正答率 40%以下（0～6 問正解）の児童の割合
 全国 10.4% 長野市 8.2%

○正答率 80%以上（12～15 問正解）の児童の割合
 全国 50.4% 長野市 55.1%

領域・観点・問題形式別グラフ



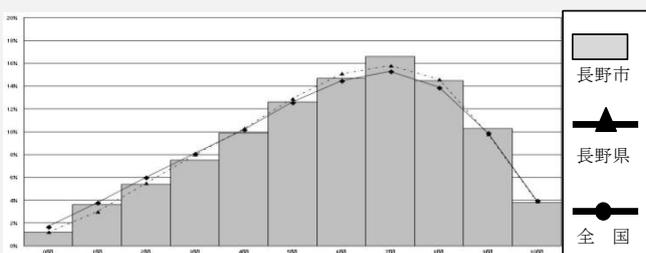
領域・観点・問題形式別の結果

- ◇すべての領域や観点、問題形式で、全国の区分別平均正答率を上回っている。
- ◇言語事項、言語についての知識・理解・技能、漢字の読み書きやひらがな表記をローマ字で書く問題などの正答率が高くなっている。問題形式では、短答式で正答率が高くなっている。
- ◆正答数が示されておらず、正しいものをすべて選択する問題の正答率が全国と比べ、低くなっている。

(2) 小学校国語 B問題（活用に関する問題）

正答数分布

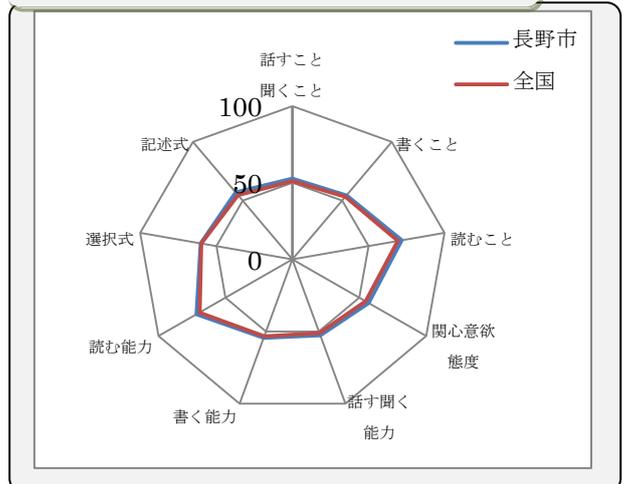
学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。



○正答率 40%以下（0～4 問正解）の児童の割合
 全国 29.8% 長野市 27.6%

○正答率 80%以上（8～10 問正解）の児童の割合
 全国 27.8% 長野市 28.6%

領域・観点・問題形式別グラフ



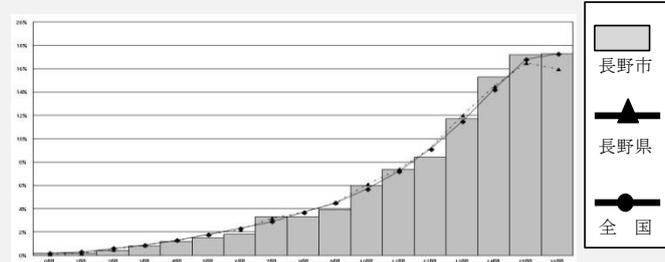
領域・観点・問題形式別の結果

- ◇すべての領域や観点、問題形式で、全国の区分別平均正答率を上回っている。
- ◇読むこと・読む能力、目的に応じて文章の内容を的確におさえ、自分の考えを明確にしながら読む問題などの正答率が高くなっている。問題形式では、記述式で2.3ポイント高くなっている。
- ◆グラフを基に、分かったことを的確に書く問題の正答率が低くなっている。

(3) 小学校算数 A問題 (知識に関する問題)

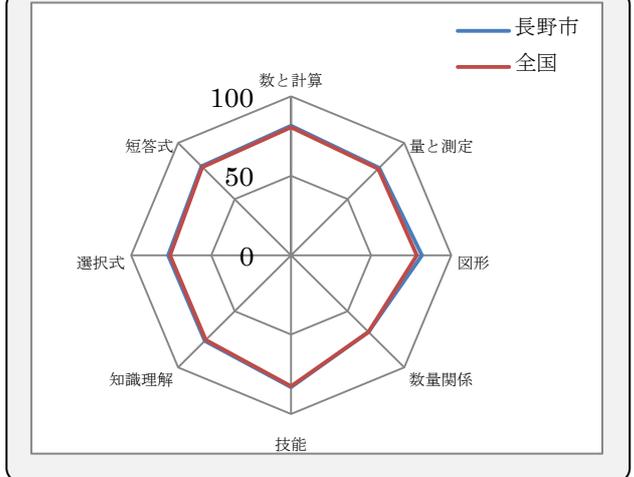
正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。



- 正答率 40%以下 (0~6 問正解) の児童の割合
全国 7.4% 長野市 6.1%
- 正答率 80%以上 (13~16 問正解) の児童の割合は、
全国 48.3% 長野市 49.8%

領域・観点・問題形式別グラフ



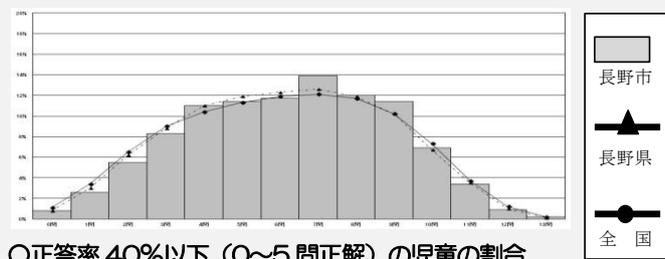
領域・観点・問題形式別の結果

- ◇すべての領域や観点、問題形式で、全国の区別平均正答率以上となっている。特に、図形の領域で正答率が高くなっている。観点別では、知識・理解が、問題形式では選択式で高くなっている。
- ◆設問別では、除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことへの理解が全国より高いものの、1を超える割合を百分率で表す場面における基準量と比較量の関係の理解が全国より低くなっている。

(4) 小学校算数 B問題 (活用に関する問題)

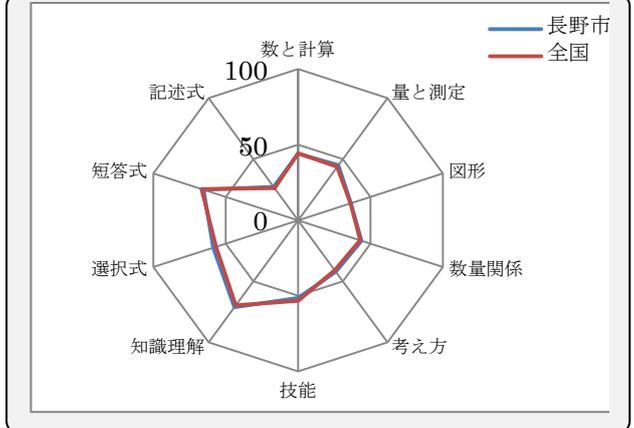
正答数分布

学力の分布は、中央値を中心にした山型である。



- 正答率 40%以下 (0~5 問正解) の児童の割合
全国 41.7% 長野市 39.6%
- 正答率 80%以上 (11~13 問正解) の児童の割合
全国 5.1% 長野市 4.5%

領域・観点・問題形式別グラフ



領域・観点・問題形式別の結果

- ◆領域別では数と計算、観点別では数量や図形についての技能、問題形式では短答式で、全国の区別平均正答率をやや下回っているが、他は、全国平均を上回っている。
- ◇知識・理解の観点では、正答率が高くなっている。設問別では、示された事柄について、2つの表を基に読み取ることができない事柄を特定する問題が全国より高くなっている。
- ◆示された式に数値を当てはめて目標のタイムを求める問題が、全国より低くなっている。

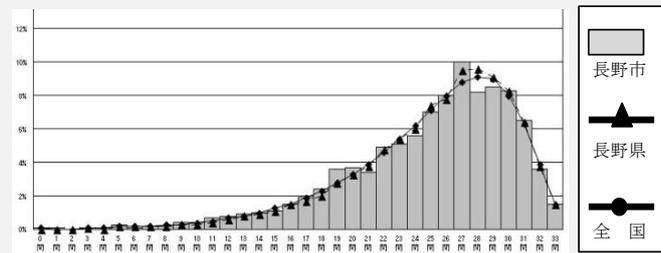
【小学校の傾向】

- 小学校では、国語A・B、数学Aにおいて、平均正答率 40%以下の児童の割合が低く、平均正答率 80%以上の児童の割合が高い傾向が見られます。算数Bでは、正答率 80%の児童が低くなっています。
- 「領域・観点・問題形式別グラフ」を見ると、長野市の結果を示す青線の多くは、全国平均を示す赤線上、または中心から見て外側に位置し、全国平均を上回っていることがわかります。

(5) 中学校国語 A問題 (知識に関する問題)

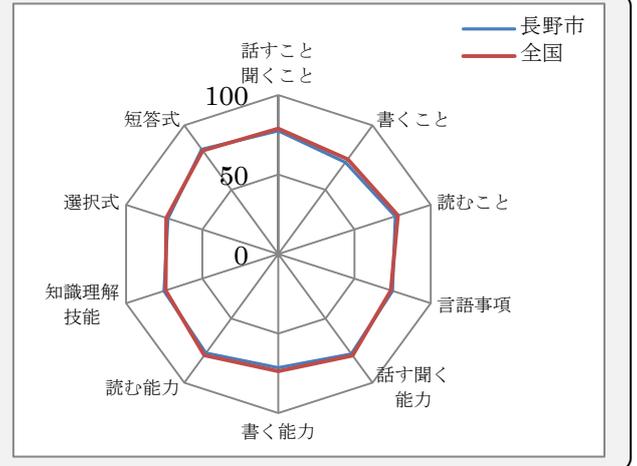
正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。



- 正答率 40%以下 (0~13 問正解) の生徒の割合
全国 3.9% 長野市 4.4%
- 正答率 80%以上 (27~33 問正解) の生徒の割合
全国 46.6% 長野市 46.6%

領域・観点・問題形式別グラフ



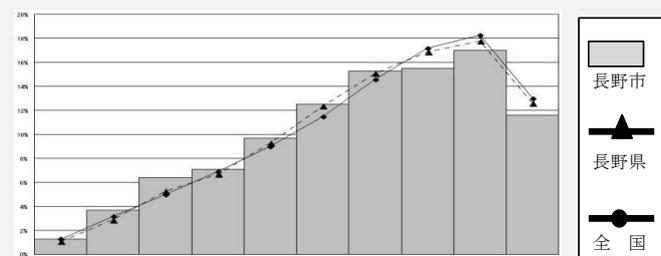
領域・観点・問題形式別の結果

- ◆全国の区分別平均正答率と比較して、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの領域・能力において、全国を下回った。文字の形や大きさ、配列に注意して書く、書籍の巻末の記載を使って本についての情報を得る、話の展開などに注意して聞き、自分の考えを比較するなどの問題で全国の前正答率より低くなっている。
- ◆問題形式の選択式でも全国の前正答率と比べ、やや低くなっている。

(6) 中学校国語 B問題 (活用に関する問題)

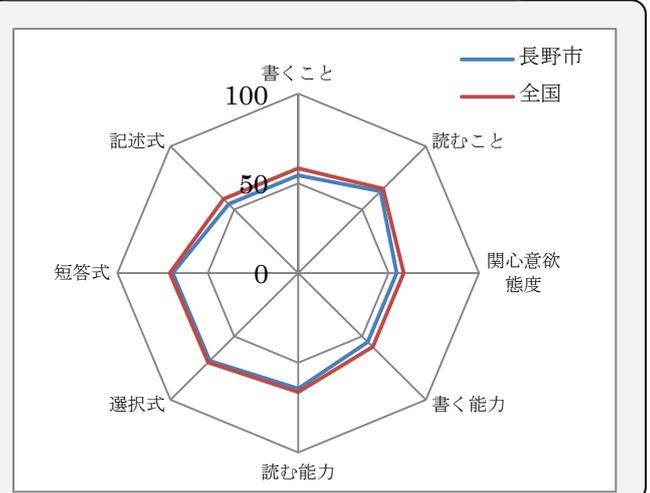
正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。



- 正答率 40%以下 (0~3 問正解) の生徒の割合
全国 16.4% 長野市 18.5%
- 正答率 80%以上 (8~9 問正解) の生徒の割合
全国 31.3% 長野市 28.6%

領域・観点・問題形式別グラフ



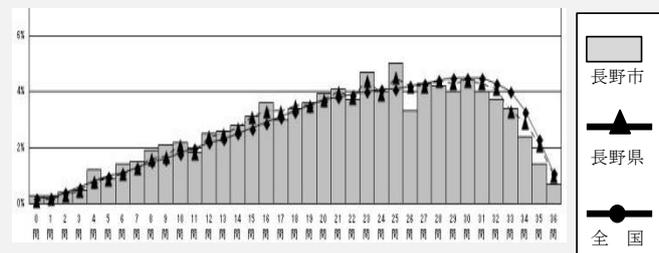
領域・観点・問題形式別の結果

- ◆全国の区分別平均正答率と比較して、書くこと、読むことの領域・能力と、国語への関心・意欲・態度において下回った。本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題や、文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く問題が低くなっている。
- ◆問題形式の選択式、短答式、記述式全てで、全国の前正答率よりもやや低くなっている。

(7) 中学校数学 A問題 (知識に関する問題)

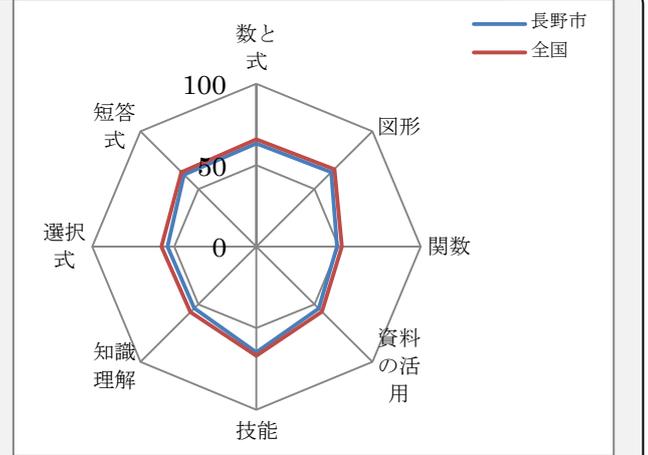
正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。



- 正答率 40%以下 (0~14 問正解) の生徒の割合
全国 19.5% 長野市 22.4%
- 正答率 80%以上 (29~36 問正解) の生徒の割合
全国 28.5% 長野市 24.0%

領域・観点・問題形式別グラフ



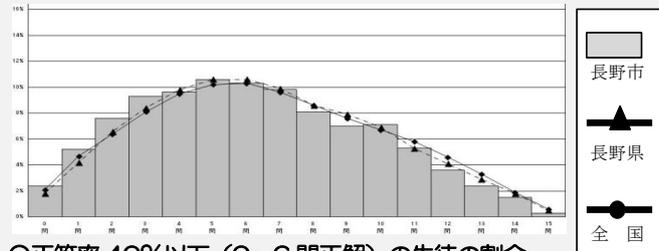
領域・観点・問題形式別の結果

- ◆すべての領域、観点、問題形式で、全国の区分別平均正答率を下回った。
- ◆観点別では、知識・理解が、問題形式では選択式で平均点が低くなっている。
- ◆設問別では自然数の意味理解、確率における「同様に確からしい」ことの意味理解、一次関数における変化の割合の理解が全国に比べて低くなっている。

(8) 中学校数学 B問題 (活用に関する問題)

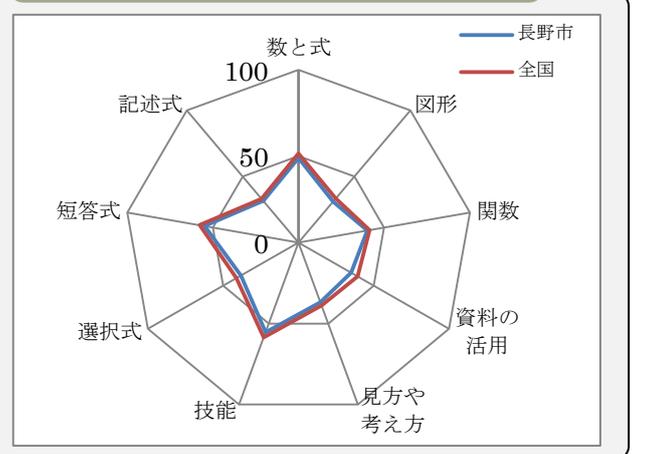
正答数分布

学力の分布は、正答数の少ない側に集中した山型である。



- 正答率 40%以下 (0~6 問正解) の生徒の割合
全国 51.3% 長野市 55.0%
- 正答率 80%以上 (12~15 問正解) の生徒の割合
全国 10.4% 長野市 7.8%

領域・観点・問題形式別グラフ



領域・観点・問題形式別の結果

- ◆すべての領域、観点、問題形式で、全国の区分別平均正答率を下回った。
- ◆資料の活用の領域、観点別の技能、問題形式では選択式で低くなっている。
- ◆設問別では、資料の活用で相対度数を求める問題や、計算の過程を振り返って考え、数当てゲームの新しい手順を完成する問題が全国に比べて低くなっている。

【中学校の傾向】

- 中学校では、国語、数学とも、平均正答率が 40%以下の生徒の割合が高く、平均正答率が 80%以上の生徒の割合が低い傾向が見られます。
- 「領域・観点・問題形式別グラフ」を見ると、長野市の結果を示す青線の多くは、全国平均を示す赤線上、または内側に位置し、全国平均を下回っていることがわかります。

5 長野市で大切にしている資質・能力（C 学力）

全国=100

緑字 今年度の新設項目 赤字 全国を上回った数値 青字 全国を下回った数値

【未来力】 将来の夢や目標と見通しを持ち、努力を継続できる力	小学生	中学生
将来の夢や目標を持っていますか。	99.6	100.0
国語や算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役立つと思いますか。	98.8	99.1
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	100.1	99.6
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	127.2	112.4
※ 数値は、肯定的に回答した評価の割合です。 今年度平均	106.4	102.8
【自律力】 規範意識を持ち、自分をコントロールする力	小学生	中学生
学校のきまり（規則）を守っていますか。	98.8	99.8
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	102.1	99.0
家で、学校の宿題をしていますか。	99.3	99.9
今年度平均	100.1	99.6
【絆 力】 他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力	小学生	中学生
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。	100.2	100.2
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。	100.2	98.9
学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか。	98.0	83.0
今年度平均	99.5	94.0
【実践力】 獲得した知識・技能及び思考力・表現力を駆使して、粘り強く課題に対応し、行動する力	小学生	中学生
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。	101.2	98.6
「総合的な学習の時間」で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか。	101.1	87.6
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	85.6	72.6
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。【難しいと思わない割合】	106.7	108.9
学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができると思いますか。	98.7	89.4
今年度平均	98.7	91.4

○今年度、長野市の中学生では、実践力（学習の目的をもつ、自ら課題をもって調べる、充実した話し合い活動を行うなど）に課題が見られます。

6 質問紙調査の結果から

(1) 家庭学習

赤字 全国を上回った数値

青字 全国を下回った数値

学校質問紙調査より	小学校			中学校		
	全国平均	長野市	差	全国平均	長野市	差
肯定的評価から見た全国との比較						
児童生徒に対して、家庭での学習方法を具体例を挙げて教えた	91.9	83.0	▲ 8.9	87.8	100.0	12.2

児童生徒質問紙調査より	小学生			中学生		
	全国平均	長野市	差	全国平均	長野市	差
肯定的評価から見た全国との比較						
家で計画立てて勉強している	62.2	63.3	1.1	48.4	45.0	▲ 3.4
学校の宿題をしている	97.0	96.3	▲ 0.7	90.1	90.0	▲ 0.1
授業の予習をしている	43.3	33.3	▲ 10.0	34.2	20.3	▲ 13.9
授業の復習をしている	55.2	50.2	▲ 5.0	51.0	47.1	▲ 3.9
普段、2時間以上学習している	25.5	23.9	▲ 1.6	34.2	29.1	▲ 5.1
土日、2時間以上学習している	24.2	25.1	0.9	40.1	45.6	5.5

○小学校では、家庭学習の指導について「指導した」と肯定的に回答した学校の割合が低くなっています。中学校は全国より肯定的な回答の割合が高くなっています。

○しかし、家庭学習の取組について肯定的な回答をした児童生徒の割合は全国平均と比べて低い結果になりました。指導する教員と取り組む児童生徒の意識に差が見られます。また、予習のあり方については小学校中学校ともに日常の授業のあり方を含め、今後の指導を考えていく必要があります。

(2) 基本的な生活習慣

児童生徒質問紙調査より	小学生			中学生		
	全国平均	長野市	差	全国平均	長野市	差
肯定的評価から見た全国との比較						
朝食を毎日食べている	95.5	97.1	1.6	93.3	94.7	1.4
決まった時刻に起きている	80.1	83.6	3.5	75.2	75.3	0.1
決まった時刻に寝ている	90.8	92.7	1.9	92.3	91.4	▲ 0.9
2時間以上ゲームをする	29.7	23.1	6.6	34.9	30.7	4.2
2時間以上 通話やインターネットをする	10.4	6.7	3.7	30.1	21.4	7.7

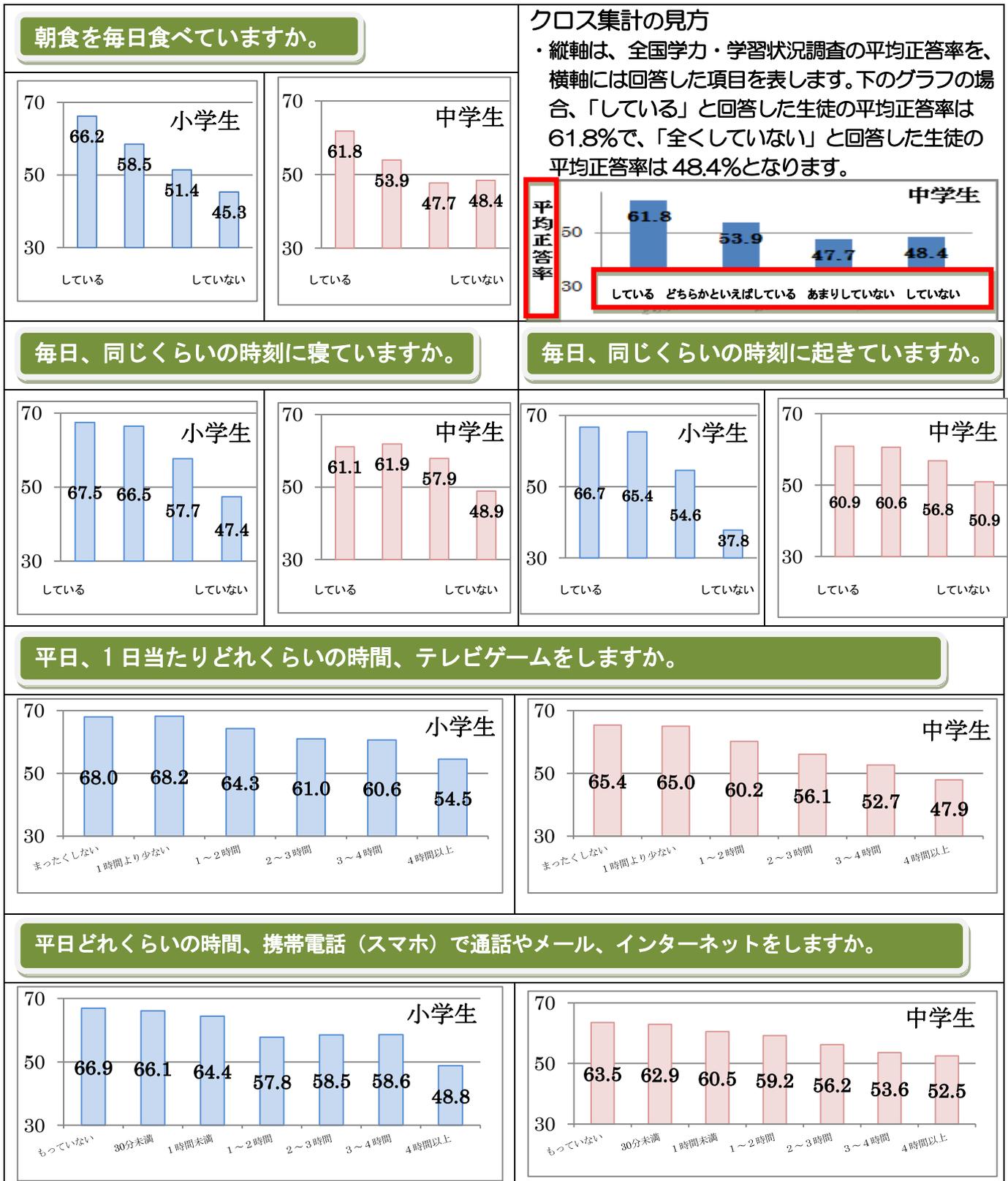
○長野市の児童生徒の基本的な生活習慣について見ると、肯定的な回答が全国と同程度、または全国を上回る結果となっています。

○「2時間以上ゲームやインターネットをする」と回答した児童生徒は全国を下回りました。家庭での時間の使い方や生活習慣については、今後も家庭と連携して考えていく必要があります。

※ ゲームやインターネットの調査については、利用時間が2時間以上と答えた児童生徒の割合が少ないことを「全国を上回った」として表しています。

児童生徒質問紙調査と教科に関する調査結果（平均正答率）のクロス集計

※ クロス集計とは、2つの項目に注目して同時に集計する集計です。



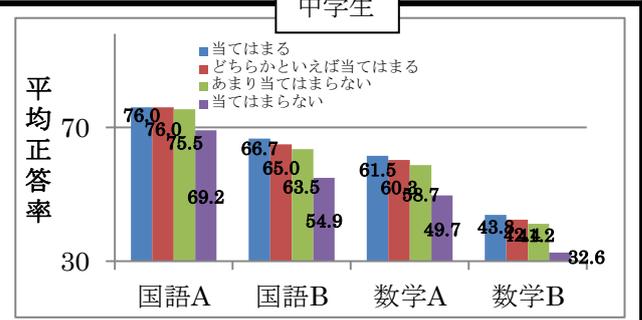
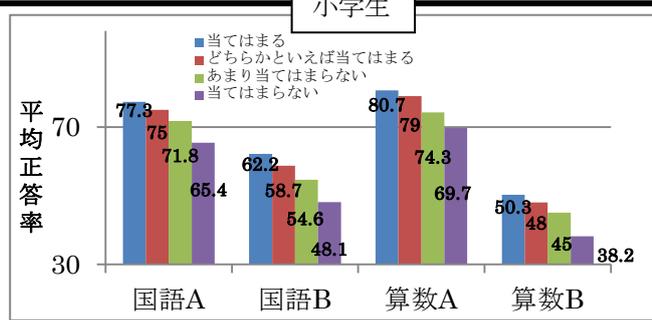
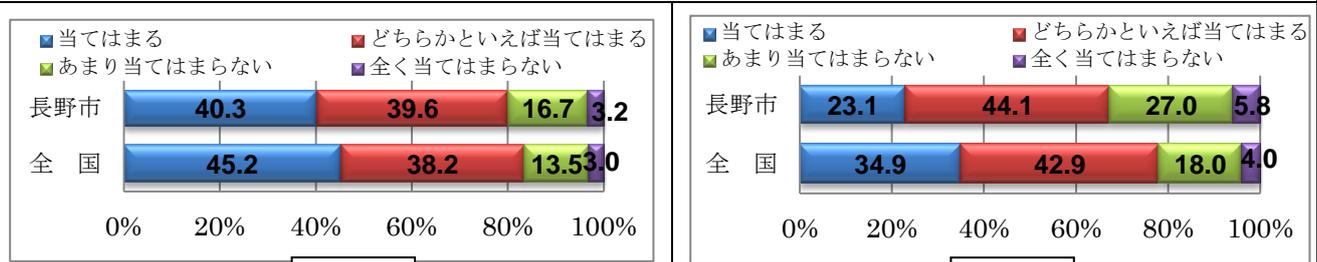
○食事や就寝、起床時刻などの基本的な生活習慣やメディアと接する時間についての調査と、教科に関する調査の平均正答率をクロス集計で見ると、小・中学生ともに関連が見られます。

(3) 日常の指導改善

○平成 28 年度児童生徒質問紙調査結果より

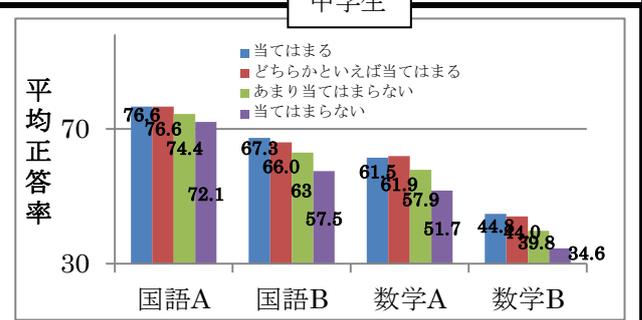
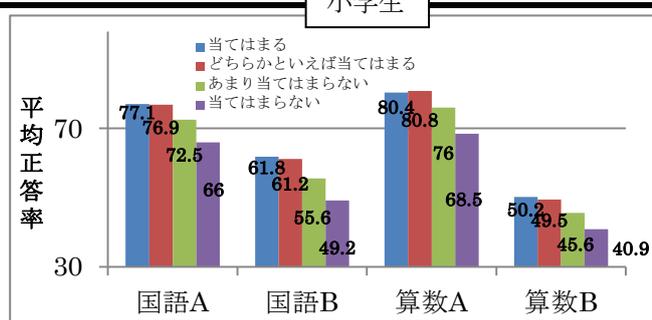
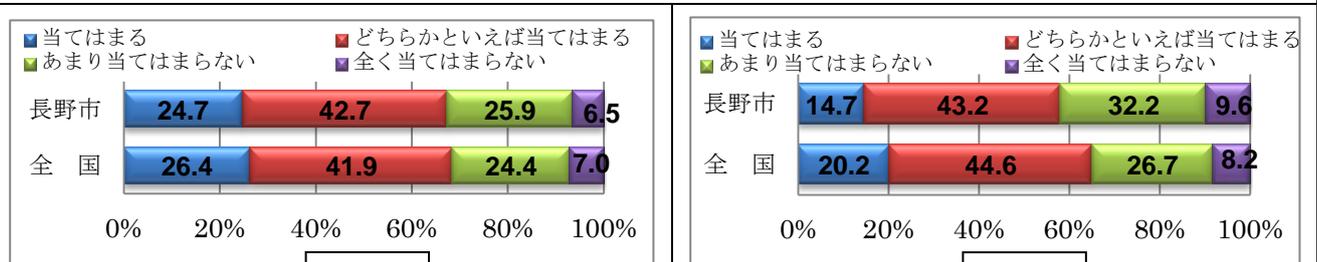
※グラフでは、無回答分や四捨五入による表示等の関係で、合計が必ずしも 100%にならない場合があります。

(小・中学生) 学級の友達・生徒の間で、話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



質問と長野市の平均正答率との関係 (クロス集計)

(小・中学生) 学級の友達・生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

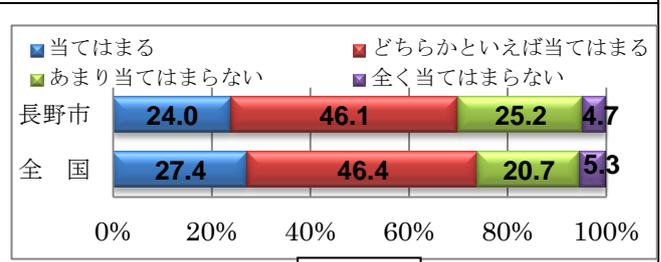
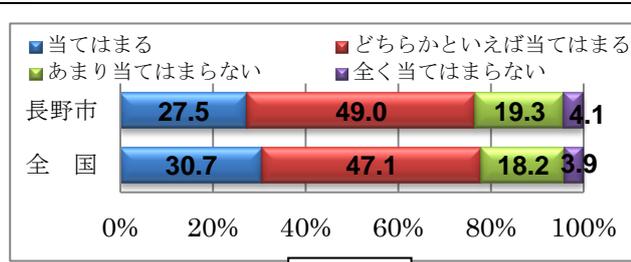


質問と長野市の平均正答率との関係 (クロス集計)

○小・中学生とも、話し合う活動に進んで取り組む児童生徒ほど、学力調査の平均正答率が高くなる傾向がクロス集計からわかります。話し合い活動は、学力と大きな相関関係があると言えます。
○長野市では、いずれの質問も全国と比べて「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した児童生徒の割合が低く、話し合い活動を大切にしたい授業改善を進める必要があります。

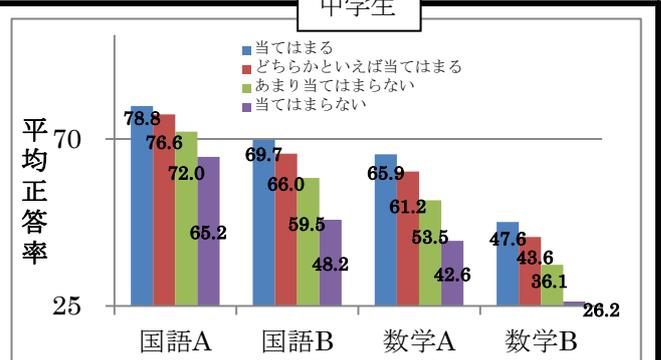
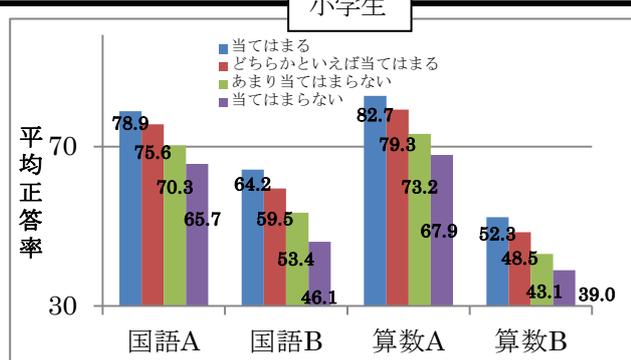
○ 平成28年度 児童生徒質問紙調査より

(小・中学生) 先生から示される課題や学級や、グループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



小学生

中学生



質問と長野市の平均正答率との関係 (クロス集計)

○小・中学生とも「自分たちで立てた課題」に主体的に取り組む児童生徒ほど、学力調査の平均正答率が高くなる傾向が、クロス集計からわかります。特にA問題よりも、活用する力を問うB問題で、「当てはまる」「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率の差が大きくなっています。

7 学力向上・授業改善の糸口

【家庭学習】

- ・1月の市教育センターで実施する学力向上研修講座で、中学校区や支会で取組んだ家庭学習や連携に関する研修会等の取組の成果と課題等、進捗状況について意見交換を行う。
- ・小中連携の進め方や家庭学習のつなげ方等について、市指導主事が各校に出向いて支援を行う。

【基本的な生活習慣】

- ・市PTA連合会と連携し、「長野市大人と子どもの心得八か条」や「親子の3ステップ」、「家庭における7つの取組」について、さらに普及を図る。
- ・中学生がメディアとの適切な利用の仕方、部活動等を含む生活習慣、学習習慣づくり等について、生徒会活動等を通して考え合う場として、2月に生徒会サミットを開催する。
- ・「携帯電話・インターネット等についてのアンケート」（ポータルサイトより小学校5年生から中学3年生まで実施）の結果を学校ごとに集計し、各校へ提供する。

【日常の指導改善】

- ・A学力、B学力、長野市で大切にしていける資質・能力（C学力）をバランスよく伸ばすために、「しなのき授業スタンダード」の一層の普及を図る。（しなのき授業研究委員会の委員による公開授業や、しなのき通信の配信等）
- ・中学校の指導改善を推進するため、来年度に向けた指導改善の体制づくりや、学力検査を活かしたPDCAづくりについて、市指導主事が訪問支援を行う。
- ・繰り返して身に付ける学習と、自分たちで課題を見つけて取組む新しい授業観の学習の両方をバランスよく進めていくため、教員の研修を一層充実させ、教員の指導力向上に取組む。

